

ぶらりわが街宮沢界限

⑩ 道の昔と今 — 1 — 諏訪松中通り(昭和通)

昭島市域の地形は、市の南側に沿って流れる多摩川に向かって、3つの段丘によって形成されており、上位より立川段丘、青柳段丘、拝島段丘と南に下降し、多摩川の沖積面(ちゅうせきめん)へと連なっている。左岸側では、玉川上水の流れている辺りの標高が高く、美堀町5丁目で、約121m(*市で一番高所は、多摩川右岸側の滝山丘陵(拝島町6丁目)約160m)また、多摩川辺りの標高は一番低く、郷地町3丁目辺りは約77mで、市の地形は、北西から東南東に向かってやや傾斜しています。そのために坂道が所々で見られます。

- 諏訪松中通り一都道第162号線・市道第40号緑一諏訪神社西側～JR青梅線～つつじヶ丘団地東側～松中橋 別名一八王子・三ツ木道。レナウン街道

昔、多摩川の渡し場「平の渡し」は、現在の八王子市平と大神町4丁目(大神グランド)との間にあった。この道筋は、八王子と武蔵村山三ツ木さらに川越を結ぶ、「八王子・三ツ木道」とか「古川越道」と呼ばれていた。(*⑦多摩川-V 渡し場一平(たいら)の渡しに記載)

- ・ 「平の渡し」から、現在の成隣小学校西側から正門(大神町4丁目)の坂道は「馬坂」といわれ、天正18年(1590)徳川家康は、「平の渡し」から川越方面への遊覧のため、この坂を上った。また、永禄12年(1569)の滝山合戦の際、武田勢もこの坂を下って、滝山城攻めを行ったと言われている。

昭和12年(1937)昭和飛行機工業の創立当時、機械設備等の自動車による搬入のため、奥多摩街道から工場正門前(現、青梅線昭島駅西先踏切際)に至る道路が必要と計画され、大神の「平の渡し」より、旧五鉄の大神停車場から上川原を通して、レナウン街道に抜ける道(大神街道)の方が主要道路であったが、結局決まったのは、奥多摩街道から諏訪神社と阿弥陀寺の間を北上し、宮沢地区を経て工場正面に至る、延長約2km、幅員(ふくいん)11mの道路を昭和飛行機工業の負担で新設し、地元へ寄贈(きぞう)されました。その道路は、「昭和通」の名で人々に親しまれていましたが、道路の築造に合わせて当時建立された「昭和通」の石標は、年を経て散失しましたが、その後、地元有志の熱意により、マンションセブンハイツ前に(宮沢町1-6-2)この石標は、修復再建され今日に至っている。

昔の諏訪神社と阿弥陀寺の間を北上する道は、「お宮坂」といわれ急な坂で、麦まきや収穫、養蚕(ようさん)での桑とり等で、この坂と続く上り坂に、少し重いと荷車を後押しして押し上げるほどで、車を引くだけの、道幅3m やつとこの狭い砂利道でした。

- ・ 愛称「新昭和通」平成10年(1998)4月17日開通一昭島駅北口の十字路から北へ進み、ゆるくカーブをしながら「フォレスト・イン昭和館」先の十字路に至る、全長594m・幅員16m道路は、昭和飛行機工業が全額負担で新しく築造し、市に寄贈された。
- ・ 踏切渋滞解消一昭和62年(1987)5月18日諏訪松中通り、朝日町踏切の立体交差開通。

記 防犯宮沢支部会計 西山 禎一

